

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学校評価報告

草加市立草加小学校

(平成31年2月4日作成)

1 学校教育目標	
(1) 考える子 (2) 思いやりのある子 (3) たくましい子	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>○育てます — 児童一人一人を大切にされた教育活動の推進 確かな学力の伸長 心豊かな児童の育成 健やかな体づくり 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携協力校としての取組</p> <p>○開きます — 地域と共に歩む学校 学校公開の機会 学習予定表の配付 地域の教育力の活用</p> <p>○整えます — 安全・安心で潤いのある学校 潤いのある環境づくり 安全対策の充実</p>	<p>成果</p> <p>○授業数増に伴い、外国語活動の研修を行うなど新学習指導要領を踏まえた指導力向上に努めた。</p> <p>○地域の教育力と学校環境を生かした特色ある教育活動を展開し、心豊かな児童の育成に努めることができた。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家庭、地域、児童の安全、安心を最優先した施設の改修 ●ICT環境の整備

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○学校評価の考察をもとに改善点を部会や学年で見直すなどして組織力の向上が図れた。</p> <p>○職員会議や打合せで共通理解・共通行動を図り、全職員一丸となり教育活動を実施できた。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<p>○幼保小中一貫教育の草加中学校区3校では全国発表の反省を生かして、より研究を深めることができた。</p> <p>●「主体的・対話的で深い学び」についての研究をさらに深めていく。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○安全点検表をもとに把握した修繕箇所や危険箇所を打合せ等で職員全体に周知することで、素早く対応したり安全安心に対する意識を共有したりすることができた。</p> <p>○学校行事として行う避難訓練と休み時間などを行うショート避難訓練の合計6回避難訓練を実施するなど緊急時の対応など児童への意識も高めることができた。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○情報管理に努め、個人情報の管理徹底を図った。</p> <p>○特別教室について、教室毎に使用予定表を作成することで、有効利用することができた。</p> <p>●計画的な施設の改修を行うことで、学習環境の改善を図っているところである。</p>
	⑤地域との連携開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○多くの保護者がPTA活動に積極的に参加しており、その活動は多岐にわたっている。</p> <p>○全学級が学習予定表を配付するなど、学校情報を積極的に発信している。</p> <p>○草加中学校と地域清掃を実施するなど連携を深めることができた。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	<p>○特に算数を中心とした学習内容や生徒指導の連携では、草加中と意見交流を積極的に行うことができた。</p> <p>○幼稚園、保育園とも多くの交流を実施することができた。</p> <p>○一貫教育の研究を通して、異校種の子供たちの様子を知ることができ、本校での教育生かすことができた。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○実態等をふまえた学校教育目標を設定し、学校グラウンドデザインを作成し周知徹底を図った。 ○前年度の学校評価の反省を生かした教育課程を編成・実施し、工夫改善を図った。 ●学校評価における児童及び保護者の声を教職員で確実に共有し、具体的な改善を進めていく。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 わかる授業づくり 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上プランを基に「わかる授業」「できる授業」「伸びる授業」「児童主体の授業」を重点として実践を積み重ねた。 ○自己肯定感の育成を重視した授業展開を、全教職員で実施した。 ●新学習指導要領を踏まえた授業改善を行っていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開日に授業公開を行うなど道徳の授業を要に豊かな心の育成に努めた。 ○全学級「道徳カード」を作成が定着し、効果をあげることができた。 ●教科化に向けた研修の実施が必要である。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTと指導内容について毎週打合せをし、充実した学習活動を展開することができた。 ○外国語デジタル教科書の活用方法について研修会を開き、授業に生かすことができた。 ●児童の実態に即した指導内容の見直しが必要である。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事の精選を図りながら、児童一人一人が活躍できる場として実施することができた。 ○平成塾の方との交流では、活動の見直しを行い、打合せを重ねて、よりよい授業を展開することができた。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の特色を生かした学習活動を計画的に実施することができた。 ●さらに学校や児童の実態をふまえ、単元及び年間指導計画の見直しを行う。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会を毎月実施し、情報交換や具体的な対応を検討するなど、適切な指導に努めることができた。 ○管理職の指導の下、生徒指導主任を中心に児童一人一人にきめ細かく対応した。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○第6学年における国語や総合的な学習の時間に将来について考える活動を位置づけている。 ●各学年における活動を明確にし、学校全体としてキャリア教育を推進していく必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人の実態に応じた計画的な交流学習を行うことで、通常学級との交流が深まった。 ○通常学級に在籍する支援を要する児童に対して、児童実態報告会、個別カルテ、生徒指導委員会など、多くの機会を捉え情報を共有した。

⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭と学校司書との連携により、児童が本に親しむ環境整備が進んでいる。 ○全教職員が購入図書の選定に関わり、新学習指導要領に対応した図書を計画的に購入している。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットや電子黒板などの機器を活用した授業を行う頻度が上がっている。 ○SNSの使い方について、本校の約束を作成したり、保護者に周知したりした。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権作文、標語など学校全体で取り組むことができた。 ○道徳や総合的な学習の時間などの時間と関連させて指導することができた。

(様式1・小学校用③)

草加市立草加小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上プランを基に、教科毎の基本的な授業展開を共有することで、児童が安心と自信をもって学習に臨むことができるようになった。 ○基礎・基本の定着を目指し、校内課題研究と関連させ、計画的なチャレンジタイムの活用を図ることができた。
	②体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画に具体的な指導のポイントや工夫を明記することで、授業の改善が見られた。 ●体力テストの結果などから課題を明確にし、教員も児童も課題を常に意識できるような効果的な指導法を研究する。
	③自然豊かな学校施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとの森やじゃぶじゃぶ池を活用した教育活動を展開し、豊かな心を育てている。 ○「みどりの日」「もみじの日」などの行事が定着し、自然に親しむ心や愛校心を育てることができた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 草加市教育委員会委嘱「幼保小中を一貫した教育」の研究を継続することで、より研究を深めることができた。
- 地域の教育力(家庭・地域社会や平成塾、民俗資料館)と学校環境(ふれあいの森やじゃぶじゃぶ池、土俵等)を生かした特色のある教育活動を展開し、体験学習を充実させるなど、心豊かな児童を育成することができた。
- 保護者、児童、教職員の「学校教育アンケート」を実施した。教育活動等に対して保護者の評価では、17項目中10項目において概ねよい評価(90%以上)をいただいた。

6 次年度の改善策

- 幼保小中一貫教育の研究の成果を市内外に発信するとともに、さらに推進していく。
- 指導技術の伝承と新しい教育技術(「主体的・対話的で深い学び」や情報機器を効果的に活用した学習など)の研究を行う。
- 施設の老朽化の改修や学習環境の整備については、児童の安全など優先順位を明確にしなが、引き続き草加市教育委員会に要望を行う。
- ICT機器を使った、より効率的な指導法を研究していく。